



2023 年 2 月 6 日
社会福祉法人清流
さつきの家
施設長 小川裕子

「さつきの家」 だより

2 月です。「五月が丘の冬は、寒いです。」と、聴いてはいましたが、本当にその通りでした。この冬は、雪でお休みになったり、送迎が出せなかったり、ご不便をおかけしました。しかし、自然の前では人間は無力であり、謙虚でなければいけないな、と学ばせてもらえました。寒さはもう少し続くのでしょうか、暦の上では立春を迎え、新たな始まりの「春」をみんなと一緒に待ちたいと思います。

～節分を終えて・行事の大切さ～

「さつきの家」では、2 月 3 日（金）に大茶白山からの鬼に、みんなの心に巣食う鬼（虫）を、一人ずつ潔く取ってもらいました。「怖いけれども、立ち向かう」姿で、発達的には、自分を律する「自制心」が生まれているか、まだまだこれからなのか、が垣間見えます。周りの大人が、やみくもに弱者を驚かせて笑う機会では決してありません。もっと深い神聖な行事であると、私は捉えています。

幼児期、発達がゆっくりの子ども達と一緒に居た頃は、「生後 10 か月の力が芽生えているかどうか。」という視点がありました。赤ちゃんや、障害が重く「怖い」という感情に至らない子は、鬼を見ても心揺れず、泣くことはありません。「ん？なに？奇妙なものだな…」と言ったところでしょう。心が育ち、大好きな人、甘えられる人が出来ると、その異物（鬼）を「怖い存在」として認め、大好きな人の懷に抱かれて安心感を得ようとしします。二者関係という土台が必要です。季節の節目である節分で、「去年は鬼のこと怖がらなかったのに、今年は泣いたよね。」って、成長を共に喜び合う日でもありました。

ここまでの人生で、毎年、鬼に出会ってきた仲間たちです。今年の仲間の姿に、私は大人の姿をたくさん見つけました。鬼が何者かが分かってしまっても、周りの空気を察知して、驚いたままでいたり、鬼の存在に「ありがとう」したり。もちろん、感情は揺さぶられ、泣き笑い、チーンと縮む、「僕が守ってあげる！」と宣言していたのに、先に逃げてしまった自分を恥じていたり…。どの場面を切り取りしても、エピソード満載の「節分」でした。令和 5 年の、さつきの家の初年度の節分は、とこれからも記憶の一ページに刻まれる日となりました。行事は、仲間と職員と一緒に創り上げるものですね。

誕生日 おめでとう！！

N・Mさん（2月19日生 19歳）

明るいMちゃん。穏やかな笑顔がステキです。手先がとっても器用で、ふせんの封筒貼りの糊付け、さをり織り、縫い物、食器洗い、イラスト、習字、雑巾がけ…etc、生活の中でしっかり手を使えています。Mちゃんならではの工夫がステキです。そして、日々挑戦しているのは「ピアノ」「♪さつきのラララ」の伴奏を頑張っています。自信がついてきました。おしゃべりも相手に伝わるまで、根気よく伝えてくれます。毎日をきちんと丁寧に、積み重ねています。

O・Mさん（2月21日生 19歳）

筋力アップして、自分で椅子から立ち上がり、歩けるようになりました。帰りは、自分のカバンを斜め掛けにして、車まで歩いています。「あれは、何だろう！」と、発見しては手にとって揺らして楽しんでいます。床にある物も、かがんで拾います！友達大好き、穴があくほど見つめます。トイレでの排泄も継続させています。なんといっても「デキタ」時の、どや顔がキュートです。

※看護師さんも同日誕生日！です。小川の父の誕生日もこの日でした。ご縁ですね。

※「さつきの家だより」は、地域みなさまに理解していただきたいという願いを持って、定期的に発信しています。ご意見等聞かせていただけると幸いです。

連絡先：社会福祉法人清流「さつきの家」 082-942-4778（電話）

082-942-4779（FAX）

satsuki-himawari@galaxy.ocn.ne.jp（メール）